太宰府市短歌ポスト第百八期入選歌

（令和二年十一月二十六日）

選者　大久保富士子

天高く伸びたる大楠さわさわと　観世音寺に秋風わたる　太宰府市　猪俣泰夫

日の出前お詣りする人美しく　天満宮に萩の咲きけり　太宰府市　中村まさ子

君の手を握って神のもとへ行く　空に展がる秋の夕焼　鳥栖市　小島涼我

秋風に帽子とばされ幼子の　都府楼跡に追いかけ回る　福岡市　白井道義

太鼓橋手をそえ登り見おろせば　鯉跳ね渦が太く小さく　太宰府市　松尾政子

自粛てふ枷をはずして宝前へ　コロナ退散祈願してをり　太宰府市　土師累徳

さわがしい日常置いて風情ある　太宰府へ行く秋のはじまり　福岡市　田中虹歩

神無月　神は出雲へお出かけ中　梅ヶ枝餅の味は変わらず　福岡市　西田篤史

小、中学生の部

肌寒い三月の朝本殿の　風吹くたびに舞う梅の花　太宰府市　石田里奈